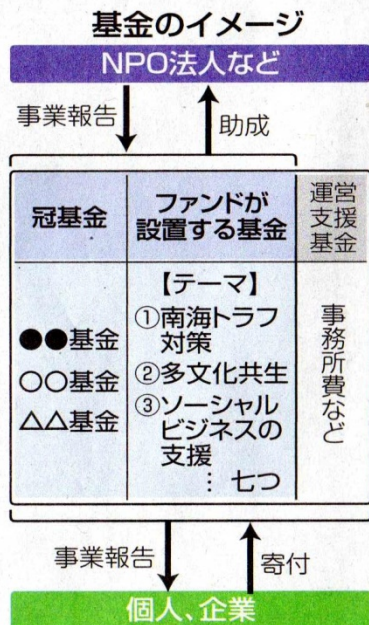


(第3種郵便物認可)

2005年の愛・地球博（愛知万博）の収益を原資に、市民活動を支援してきた県などの「あいちモリコロ基金」が本年度中に解散するのを受け、運営に携わった人たちが一般財団法人「中部圏地域創造ファンド」を設立し、今月から本格的に活動を始めた。個人や企業から寄付を募り、地域の課題解決に取り組むNPOなどに分配。社会に貢献したい人たちと、活動費を求める団体の橋渡しをする。（諏訪慧）

「中部圏地域創造ファンド」始動

モリコロの心継ぎ 市民団体に活動費



ファンドが設けるのは三種類の基金で、その一つが寄付する人の希望に沿って助成先の分野を選ぶ「冠基金」。寄付者が基金の名称も自分で決められる。例えば、経済的に苦しいひとり親家庭で育った人が、親への感謝を込めて基金に親の名前を付け、助成先を「自らと似た境遇の貧困家庭の学習を支援する団体」とするケースなどを想定している。

助成する団体は、その分野

残り二つの基金は「ファンドが設置する基金」と「運営支援基金」。ファンドが設置する基金では、南海トラフ巨

に詳しい大学教授らが審査して決定。希望があれば寄付者も審査に加われる。応募がなかったり、適切な団体がなかったりした場合は、ふさわしい助成先が見つかるまで寄付金は使われない。寄付額の下限はないが、数万円程度から目安。同じ仕組みは、大阪商工会議所などが設立した「大阪コミュニティ財団」（大阪市）が取り入れている。

大地震対策の推進や多文化共生の支援など、七つのテーマを設けて寄付を募集。各テーマに沿った活動をする団体に助成する。運営支援基金は、ファンドの事務所費などに充てる。

「あいちモリコロ基金」は〇七年、十三億円を原資に設立。これまでNPOなどの活動千六百三件に対し、計十億八千万円を助成した。助成で活動の幅を広げた団体は多く、同様の基金を求める声に関係者から上がっていた。

ファンドの理事長には元愛知県副知事で、岐阜薬科大の稲垣隆司学長が就いた。多様化する社会問題に対応するには市民団体の力が不可欠だが、資金集めに悩む団体は少なくないという。「モリコロ基金がつくり上げた社会貢献の土台を引き継いでいきたい」と話す。

中部圏地域創造ファンド
052(228)0350